

# 総合日本語コース報告（2015年10月～2016年9月）

濱田 美和

## 1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低いため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級および中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2015年10月に12期目の学生を迎えた。

以下、2015年度秋期（2015年10月～2016年3月）及び春期（2016年4月～9月）の総合日本語コースの実施状況について報告する。

## 2 受講学生

### 2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2015年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は6人で、全員秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインド、スリランカ、タイ、中国、フランス、ロシア各1人で、所属は人文学部が4人、人間発達科学部が2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2015年度は秋期と春期、各期9科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2015年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は、14科目（秋期6、春期8）が1人、13科目（秋期7、春期6）が1人、12科目（秋期6、春期6）が1人、10科目（秋期5、春期5）が2人、6科目（秋期4、春期2）が1人だった。

### 2.2 協定校からの交換留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく交換留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する交換留学生は総合日本語コースを受講している。交換留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は14人で、出身国・地域別の内訳は中国が8人、韓国が4人、アメリカとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が10人、経済学部が2人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。春期は11人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、韓国が2人、アメリカとロシアが各1人、所属別の内訳は人文学部が7人、経済学部が2人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は7科目が2人、5科目が1人、4科目が4人、3科目が3人、2科目が3人、1科目が1人、春期は7科目が1人、6科目が1人、5科目が1人、4科目が2人、3科目が5人、1科目が1人だった。

## 3 担当者

秋期、春期ともにセンター専任教員3人（小木曾左枝子、副島健治、濱田美和）、及び、非常勤講師7人（高島智美、中河和子、永山香織、藤田佐和子、松岡裕見子、要門美規、横掘慶子）が授業を担当した。いずれの期もセンター専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

## 4 スケジュール

秋期は、2015年10月8日(木)～2016年2月9日(火)を授業期間とした。12月23日(水)～1月4日(月)は冬季休業、1月15日(金)は大学入試センター試験準備日のため、休講とした。また、曜日調整のため、11月26日(水)と1月12日(火)は月曜日の授業を行った。

春期は、2016年4月11日(月)～7月29日(金)を授業期間とした。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は、秋期は2015年10月6日(火)、春期は2016年4月6日(水)である。オリエンテーションでは、学生に各授業科目の目的、理解達成目標、授業計画等を掲載した授業概要の冊子(授業概要は国際交流センターホームページ上にも掲載、Web版は日本語と英語での閲覧が可能)を渡し、コースの内容、各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは、履修の際の参考となるよう、秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は、授業開始後1週間以内に行い、履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

## 5 授業内容

総合日本語コースは、上級および中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが、日本語課外補講は成績評価が必要でないため、授業科目によっては必要に応じ、総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表1の通りである。科目名にCのついた授業は上級レベル、Bのついた授業は中級レベルである。いずれの科目も秋期と春期で同一の授業概要(目的)となっているが、上級レベルの授業については、秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように、授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表1 総合日本語コース授業概要(2015年10月～2016年9月)

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期：読解C2a(火4) [藤田] 春期：読解C1a(火2) [藤田]	文章全体の意味を捉えたり、文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより、大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)、春期は『日本語能力試験徹底トレーニングN1 読解』(アスク出版)を主教材として使用する。
秋期：読解C2b(木3) [永山] 春期：読解C1b(木3) [永山]	留学生に必要とされる専門書、論文の読解能力の育成を目指し、教養書、新聞記事等日本での学生生活で出会う様々なテキストタイプの読み物(日本人向けに書かれたもの)を扱う。それぞれのタイプの読み物の特徴となる基本的な構造、文体等を把握し、それに慣れる手立てを見つかる。
秋期：文法C2(木2) [濱田] 春期：文法C1(火1) [濱田]	大学での学習、研究に必要な上級の文法・表現を整理し、多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法N1』(アルク)、春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験N1』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：作文C2(金2) [松岡] 春期：作文C1(金2) [松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成、表現、文法の基本を学び、学習した項目を用いてまとまった文章を書くことで、レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。
秋期：聴解C2(水3) [要門] 春期：聴解C1(水3) [要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話C2(火3) [松岡] 春期：会話C1(火3) [松岡]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。

秋期：漢字C2(月3) [高島] 春期：漢字C1(月3) [高島]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.2 (凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術C2(月2) [濱田] 春期：表現技術C1(月2) [濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化C2(水4) [中河] 春期：日本文化C1(水4) [中河]	留学生として日本社会を分析する試み(情報の読みとり、整理など)をTV番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現B2a(月1・2) [高島], b(水1・2) [中河] 春期：文法・表現B1a(月1・2) [高島], b(水1・2) [中河]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』(凡人社)を主教材として使用する。
秋期：文法・読解B2a(火1・2) [松岡], b(木1・2) [副島] 春期：文法・読解B1a(火1・2) [松岡], b(木1・2) [副島]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級J301』、『日本語中級J501』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：文法B2(金1・2) [小木曾] 春期：文法B1(金1・2) [小木曾]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する。
秋期：聴解B2(木3) [横掘] 春期：聴解B1(木3) [横掘]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などの聴解教材を使用する。
秋期：会話B2(水3) [横掘] 春期：会話B1(水3) [横掘]	大学での学習や研究を行っていく上で必要となるプレゼンテーションなどのパブリックスピーチを重視し、中級レベルの語彙や文法を使って、自分自身で考えたことなどを場面に応じて適切に口頭で表現できる力を養成する。
秋期：漢字B2(月3) [濱田] 春期：漢字B1(月3) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。学生一人一人のレベルに応じたテキスト(『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字1000PLUS』Vol.1 (凡人社)等)を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。

\* 1 限 8:45~10:15, 2 限 10:30~12:00, 3 限 13:00~14:30, 4 限 14:45~16:15

\* 秋期, 春期ともに1回90分(上級レベルの全科目, 聴解B, 会話B, 漢字B)あるいは180分(文法・表現Ba, 文法・表現Bb, 文法・読解Ba, 文法・読解Bb, 文法B)の授業を15週行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級および中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語課外補講報告の7 授業評価を参照いただきたい。

## 6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、優(80点~100点), 良(70点~79点), 可(60点~69点), 不可(59点以下)で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。9月(留学期間が半年の学生については3月)に成績を記した履修証明書の発行を国際交流センター長名で行っている。

## 7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外

に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2016年7月27日（水）、28日（木）、29日（金）、8月2日（火）、3日（水）、調査対象：2015年度日本語・日本文化研修留学生（6人）、協定校からの交換留学生（9人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

<p>1. 総合日本語コース： 科目について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・十分だった。(6人)</li> <li>・他の大学で学んでいる日研究生にも話を聞いたが、富山大学のコースが一番良かったと思う。富山に来てよかった。</li> <li>・教養教育も含めて考えると、選択肢は十分だと思う。</li> <li>・十分だと思う。選択肢が多いと思う。</li> <li>・十分。国で勉強したとき、文法、読解、会話は一緒に不便だったが、ここは分かれていてわかりやすい。</li> <li>・もっとあったほうがいいと思う。たとえば、読解のクラスは2つあったけど、文法のクラスも2つあったほうがいいと思う。中級クラスは週4コマあったので、上級クラスも文法の授業がもっとあったほうがいいと思う。</li> <li>・文法はちょっと難しいと思う。中級はN3、上級はN1レベルなので、N2レベルの授業があったらいい。</li> <li>・通訳と翻訳の科目があったらいいと思う。</li> <li>・もっと会話の練習をする授業があったらいい。そうしたら、日本語を話す能力もアップすると思う。</li> <li>・十分満足した。留学生ともっと友達になれるように授業中に話す機会が増えるといいと思う。</li> </ul>
<p>2. 総合日本語コース： レベルについて</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちょうど良かった。(6人)</li> <li>・中級レベルと上級レベルそれぞれいいと思う。</li> <li>・いろいろなレベルがあって、自分に合うレベルの授業を選んだので、そんなに難しくもなく易しくもなかった。</li> <li>・日常生活にはちょうどいいが、N1試験のためにはちょっと易すぎるかもしれない。</li> <li>・読解、表現、文法はちょうど良かった。聴解と会話はちょっと簡単だった。</li> <li>・秋期に取った中級レベルの授業はちょっと低かった。学部の先生に勧められて取ったけど、低く感じた。</li> <li>・日本文化はちょっと難しかった。ビデオの内容とトピックと言葉が難しかった。それ以外の授業はちょうど良かった。</li> <li>・最初はちょっと難しいと思うけど、だんだん慣れるのでいいと思う。</li> <li>・レベルはちょうど良かったと思うが、最初は日本語に慣れていなかったで、めっちゃがんばらないといけなかった。9月から11月まで2か月ぐらい一日中ずっと日本語を聞くことが辛かったが、だんだん慣れてきた。</li> <li>・文法は難しかった。他の授業は大丈夫だった。中級レベルと上級レベルの難しさの差が大きいと思う。</li> </ul>
<p>3. 科目選択の際に 重視したこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つは興味がある授業、もう一つは自分がちょっと弱いところをもっとアップしたいと考えて選んだ。</li> <li>・自分の苦手なところをもっと良くしたいと思って、ほとんどの授業を取った。</li> <li>・自分が一番弱いところを中心に選んだ。</li> <li>・自分の苦手なものを選んだ。</li> <li>・時間割を見て、日常生活の会話ができるように科目を選んだ。</li> <li>・私は話すことと聞くことがちょっと苦手だから、これらの授業を取った。</li> <li>・聞く力と話す力をつけたいと考えて、選んだ。</li> <li>・書くことは苦手だけど、興味を持っているから、文法と読解と漢字を取った。</li> <li>・何が役に立つか考えて選んだ。将来日本で仕事をしたいからそれを考えて選んだ。来る前に読解はちょっと苦手だったが、秋期に2つ読解の授業を選んで日本語力がアップした。日本語能力試験を受けたときもそれがわかった。</li> <li>・今期はN2を受けるため、読解の授業を2つ選んだ。表現技術はビジネス日本語の勉強になるので、敬語のレベルをアップしようと思って選んだ。</li> <li>・N1のテストの内容を復習できるような科目を選んだ。あとは、話す表現、書く表現をもっとうまくできるようになりたいと、選んだ。</li> <li>・N1試験の準備に役に立つ内容があるかどうかで選んだ。それから、おもしろいかどうかで選んだ。</li> <li>・内容で選んだ。自分のレベルに合っているかどうか。</li> <li>・時間割を見て、この授業がおもしろそうかどうかで選んだ。</li> <li>・シラバスを読んで、おもしろそうで役に立ちそうな授業を選んだ。</li> </ul>

<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 伸びたと思う。日本に来る前にN2を受けたけど、落ちた。今回、N2を受けて、合格できるかなと思ったので。</li> <li>• いろいろな力が伸びた。特に聞く能力が伸びたと思う。</li> <li>• 聞き取る力が上がったと思う。日本の先生の話し方はよくわかったので、それは良かったと思う。最初は授業で先生の話がわからなかったが、だんだんわかるようになった。最初は授業中、他の学生が笑っても自分はわからなくて、それはとても辛かった。今は一緒に笑える。</li> <li>• 話す力と聞く力が上がったと思う。</li> <li>• 伸びたと思う。特に話す力が伸びたと思う。全部日本語で話されなければならない状況はここに来るまでなかった。富山に来てからはいつも日本語を使うので、だんだん伸びてきた。みんなの前で話す力も伸びたと思う。修了レポートのプレゼンテーションもみんなからほめてもらえた。</li> <li>• 伸びたと思う。国ではもともと日本語を話すチャンスが少ないから話さなかったが、富山に来て話すチャンスがかなり増えて話すことが進歩した。</li> <li>• 伸びたと思う。特に話し方。国では日本語で話す機会は少ないので。</li> <li>• 伸びた。特に物の名前、食べ物、飲み物の名前などを新しく覚えた。</li> <li>• 国の大学には日本からの留学生が多いので、国にいたときから話すチャンスは多かった。日本に着いてから、漢字をだんだん読んで、読めるようになった。新聞も辞書がなくてもだいたいわかるようになった。これが一番うれしい。もちろん日本人と留学生の友達と日本語を話すチャンスは本当に良かったと思う。</li> <li>• アップした。特に読解の力が伸びた。レポートのためにたくさん本を読んで、レベルが上がった。</li> <li>• 文法の知識、漢字のも良くなった。日本語力はだいぶ上がっていると思う。日本語が自然に出てくるようになったし、文法とかも見たらぱっとわかるようになっていく。自分でもうれしい。</li> <li>• 上達したと思う。会話。そして、敬語の使い方。メールの書き方。これからアップしたいのは文法。N1の文法は難しかった。</li> <li>• アップしたと思うが。もう少し会話力をアップするために、日本人と交流すれば良かったと思う。でも、来たばかりのころ、日本人学生を誘ってもバイトをしていたりして、交流の機会が少なかったと思う。</li> <li>• 聴解はうまくなったと思うけど、話すのはまだ弱い。同じ国の学生と母語で話す機会も多くて、ふだんあまり練習しないから。</li> <li>• 日本語の他にも、日本とか日本社会についての知識が増えたと思う。今学期のほうが前の学期より話すのがちょっと苦手になってきた。語彙と単語の数は増えたと思うけど、話すときはちょっと大変になってきた。前みたいに自然ではない。どうしても母語で考えてしまう。家族が会いに来てくれたときに母語をずっと話したので、また母語で考えるようになってしまったと思う。そのとき家族のために翻訳、通訳したのが日本語を話す力のピークだったと思う。</li> </ul>
<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 楽しかった。外国の留学生といろいろ交流して勉強になったと思う。ただ、食べ物は国の料理が食べなくなった。</li> <li>• 楽しかった。留学生の仲間たちと一緒にいろいろな活動、国際交流センターの行事があった。富山の天気はいつも雨が降るのがちょっと辛かった。</li> <li>• もちろん困ったこともあったけど、楽しかった。来たばかりのとき、携帯の契約をどうするか、寮にはネットもないし携帯もないしちょっと困った。日本人の友達を作ったことが楽しかった。あとは、旅行したことも楽しかった。</li> <li>• 不便なところはあるけれど、だいたいはいいと思う。富山は田舎だけど、富山には富山のいいところがある。たとえば、私はアニメーションが好きだから、富山は東京と比べるとアニメーション関係のものに触れるチャンスが少ないが、私は田舎の雰囲気が好きだから、良かった。以前東京にいるときは、人が多くて嫌な感じがしたけど、富山はちょうどいい感じだった。</li> <li>• 楽しかった。もともとは名古屋、大阪へ行きたくて、富山は自分で選んだのではなかった。富山に来たばかりのときは交通不便だし、不安だった。でも、住んでみると、自然もきれいだし、魚もおいしいし、お寿司が好きなので富山がいいところだと思えるようになった。先生たちのおかげで他の大学の日研生より修了レポートも早くできて良かった。先生が厳しく指導してくれて、それが良かったと思う。最初は富山は嫌だったけど、だんだん好きになった。また、富山はどこへも簡単に旅行に行けるから、とても良かった。学生生活も良かった。チューターもいつも手伝ってくれて、いろいろな国の友達もできて、生活費も東京、名古屋より安くて、住みやすい場所だとわかった。先生たちも優しく、名前も覚えてくれた。指導教員も優しく、何回もレポートを直してくれて丁寧に指導してくれた。富山に来て本当に良かったと思う。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 都会より富山みたいな静かなところで、本当の日本はこういうところでわかると思うので、ここに来て良かったと思う。自分で料理を作ったり買い物したりするのに慣れてなくて最初は辛かったが、だんだん慣れてきた。</li> <li>• 母国でにぎやかなところに住んでいるので、富山のような静かなところに来たかった。東京、大阪には旅行で行けばいいので、富山に来て良かった。日本人の友達も他の国の留学生の友達もできた。</li> <li>• 良かったと思う。日常生活で日本語を使う機会がたくさんあった。もし関西、関東だったら、英語を話す人が富山より多いと思うので、それは日本語のいい勉強にならないと思った。ここに決めて良かった。不便なところがたまにあったけど、富山の人は優しい。</li> <li>• みんな優しい。いろいろな国から留学生がいて、楽しい生活をするのができた。一緒に旅行したり、国の文化についての情報を交換したりした。</li> <li>• 楽しかった。旅行もたくさんできた。特に日本人学生や留学生と交流できたことが楽しかった。文化についてもっと勉強できたと思う。</li> <li>• すごくうれしかった。各国の留学生と意見を交流して、一緒に遊んでとてもうれしかった。各国からの留学生の考え方がそれぞれ違うということはおもしろいと思う。</li> <li>• とても楽しかった。最初はちょっと辛かった。ホームシックがあったのと、国との時差が大きいので。でも、今のテクノロジーのおかげで両親と友達と相談できるので、大丈夫になった。富山大学のジムを使えて、運動ができて良かった。富山大学のサークルに参加して、それはとてもいい経験だった。サークルのおかげで、演奏の力も上がった。とても役に立つ練習だった。日本人の友達を作るのは難しかった。最初日本人のほうからだれも誘ってくれず、どうしてと思った。ギャップを感じたが、授業と一緒に活動した日本人学生と友達になった。自分のほうから誘ったら大丈夫だということもわかった。</li> <li>• 楽しかった。チューターがいることが良かった。ずっとそばにいてくれて、何かわからないことがあったら、すぐ相談にのってくれる。修了レポートもサポートしてくれた。指導教員はとても優しく、学生の立場でいろいろと考えてくれた。富山に来て良かった。</li> <li>• すばらしい。いろいろな体験した。たとえば、ここに来て初めて一人暮らしをして、自分で料理を作ったり家事をしたり生活費をどうするかを考えた。それから、いろいろなところへ旅行に行った。国ではあまり旅行のチャンスがなかったので、良かった。チューターはとても親切で、特に修了レポートを書くときにいろいろ手伝ってくれて、とても助けてくれた。一緒に遊びに行ったりもした。</li> <li>• 去年は寂しかった。4月からよくセンターに行った。友達もできたし、センターの人は本当に優しい。だんだん自分も変わっていったと思う。それから、楽しくなった。日本人の友達もできて、一緒にご飯を食べたりした。留学して良かった。</li> </ul>
--	--

まず、コースの開講科目数については十分だったという意見が多かったが、上級レベルの文法でN1レベルだけでなくN2レベルの授業を設けてほしいといった意見や会話練習をもっとしたいといった意見が複数あった。

次に、コースのレベルについては科目によって難易度が異なることや中級と上級レベルの差が大きいことを挙げる学生もいたが、全体的にはちょうど良かったという声が多かった。

科目選択の際に重視した点として、自分自身が苦手な点について力をつけようとして選んだという回答と日本語能力試験受験を考慮して選んだという回答が多かった。

自身の日本語能力については聞く、話す力を中心に力をつけたと感じている学生が多かった。語彙力の向上を挙げる学生も複数見られた。

最後に、富山の生活については留学生同士やチューターや日本人学生との交流、富山の静かな環境を評価する学生が多かったが、来日当初は寂しさや不安があったという学生たちもいた。

## 8 おわりに

総合日本語コースは、もともと日本語・日本文化研修留学生を対象として開設したプログラムであることから、上級レベルの科目のみ提供していたが、第11期(2014年10月～2015年9月)の日本語・日本文化研修留学生の中には、来日時の日本語力があまり高くなく、総合日本語コースの一部の科目につ

いては難易度が高すぎるため、日本語課外補講中級クラスの科目を受講しなければならない学生たちがいた。そこで、第12期(2015年10月～2016年9月)より中級レベルの科目も履修できるように整備した。秋期は8人(日本語・日本文化研修留学生5人, 交換留学生3人), 春期は1人(交換留学生1人)が上級レベルの科目に加えて中級レベルの科目を履修した。第11期生に対するインタビューでは例年と比べて、授業内容が「難しかった」という声が多く聞かれたが、第12期生からは「ちょうど良かった」という声が多く聞かれ、新たに中級レベルの科目を設置した効果によるものではないかと思われる。

今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、より良いコースを提供できるよう努めたい。